

大切にしたいきれいな海

宇検村立田検小学校 二年 松枝^{まつえだ}琉海^{りゅう}

ここは、あまみ大しまのタエンはま。ケンムンびょういんが、さい近、たてられました。そこにいるのは、ドクターケンムン。見た目はちよつとこわいけど、とってもやさしい先生です。まい日、いろいろな生きものが、先生をたよってやってきます。

「先生、たすけてください。おぼえはないんですけど、おなかがいたくてどうしようもないんです。」

やってきたのはウミガメのおやこのアイトとレイト。ごはんをたべて、おなかがいたくてびょういんにきたのです。ケンムン先生は、ちょうしんきをおなかにあてました。

「きのうは、なにをたべましたか。」

と、聞きました。アイトは、

「大きくてきれいなクラゲを、おなかいっぱい食べたました。」

とこたえました。ケンムン先生は、

「それは、たべすぎかもしれないね。おなかのくすりを出しましょう。」

と、くすりをくれました。

つぎの日、ジンベイザメのジンくんがくるしそうにやってきました。

「なん日か前からおなかがおもくて、およげないんだ。」ケンムン先生は、しんさつをしました。おなかがふくれています。すぐにかんごしさんに言いました。

「いそいで手じゅつのじゅんびを。」

ジンくんのおなかをあけると、プラスチックのかげらや小さな石がたくさん出てきました。ケンムン先生は、あまりの多さにびっくりしました。ジンくんは、一か月入いんして、元気に海へかえってきました。

しばらくすると、おにいさんヤドカリのヤドくんにおんぶされ、ドリーちゃんがやってきました。ペットボトルのキャップに体がすっぽりはまってしまい、まったくうごけません。ケンムン先生は、ドリーちゃんにあたらないようにゆっくりキャップを切って、はずしてあげました。やっとうごけたドリーちゃんは、ヤドくんとうれしそうにはしゃいでかえってきました。

ケンムン先生があん心していたそのときです。シュノーケルをしていた先生の友だちのさとみくんが、あわててびょういんにやってきました。

「先生、大へんだ。すてられているあみにヨロイアジのロイくんがひっかかっておぼれている。もう体力がなくな

ってきている。このままじゃしんでしまうかもしれない。
い。」

ケムン先生は、いそいでダイバーにあみを切ってたすけるようにおねがいました。ダイバーがもちかえったあみは、大きくて、海そうがたくさんからまっていた。長く海にすててあったようです。ケムン先生は、思いました。「海の中で大へんなことがおこっているのかもしれない。」

先生は、友だちをあつめて、いっしょに海の中をしらべることにしました。海の中はプラスチックやビニールぶくろ、ペットボトルなどいろいろなゴミがたくさんありました。

「きれいだった海にこんなにたくさんゴミがあるなんて。」

ケムン先生は、とってもかなしい気もちになりました。すぐに村の人たちにきょう力してもらい、海の中やはまへのゴミひろいをしました。あつというまに大きなゴミの山ができ、海はきれいになりました。ほっとした先生が海を見つめていると、一か月前にびょういんにきたアイトくんが、さとみくんにかえられてやってきました。体はやせていて、元気がありません。

「海であそんでいたら、アイトくんが元氣なくプカプ

カとういていたんだ。体はほそくなってようすがおかしい
い

から、つれてきたんだ。」

と、さとみくんが言いました。アイトくんに聞くと、いつもおなかがいっぱいではなく、ごはんをたべていないようでした。ケムン先生は、すぐに手じゅつのじゅんびをはじめました。すると、アイトくんのおなかの中から大きな白いビニールぶくろが出てきました。アイトくんがクラゲと思ってたべたのは、じつはビニールぶくろだったのです。ケムン先生のちりょうのおかげで、アイトくんは、ごはんをたべられるようになりました。

先生や村の人たちは、あまみのきれいな海をこれらのものこそすために、ボランティアをあつめて月に一回そうじをすることにしました。今日もタエンはまの海は、キラキラとかがやいていて、元氣な生きものたちがへいわにくらしています。